

合併後の人口規模等に着目した市町村合併の類型

類 型	想定される典型的な地域	合併を通じて実現すべき目標	人口規模と関連する事項
1 人口50万人超	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の地方中核都市が隣接している場合</li> <li>大都市圏において、複数の中小規模の市が隣接している場合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済圏の確立</li> <li>高次都市機能の集積</li> <li>大都市圏における一極集中の是正</li> <li>指定都市への移行による都道府県も含めたイメージアップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定都市</li> </ul>
2 人口30万人・20万人程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方中核都市と周辺の市町村で一つの生活圏を形成している場合</li> <li>大都市圏において、市街地が離れたんした複数の小面積の市が隣接している場合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画、環境保全行政等の充実、保健所の設置など</li> <li>中核的都市機能の整備</li> <li>急激な人口増加への広域的な対応</li> <li>都道府県全体の発展の中核となる都市の育成</li> <li>中核市・特例市への移行によるイメージアップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中核市(30万以上)</li> <li>特例市(20万以上)</li> <li>一般廃棄物処理(効率的なサーマルリサイクルが可能な)300t/日規模の施設の目安:20~25万人)</li> <li>老人保健福祉圏域(平均36万人)</li> <li>二次医療圏(平均35万人)</li> <li>広域市町村圏の実態(平均21万人)</li> </ul>
3 人口10万人前後	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方圏において、人口の少ない市と周辺の町村で一つの生活圏を形成している場合</li> <li>大都市周辺において、人口の少ない市町村が隣接している場合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等学校の設置や一般廃棄物の処理(焼却)など一定水準の質を有する行政サービスの提供</li> <li>県下第2、第3の都市の育成による県全体の均衡ある発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広域市町村圏の設定基準(概ね10万人以上)</li> <li>消防の体制整備(10万人程度)</li> <li>高等学校の設置(10万人以上の市)</li> <li>一般廃棄物処理(焼却)(100t/日規模の施設の目安:7~9万人)</li> <li>女性に関する施策を専ら担当する組織(課相当)の設置(10万人程度)</li> </ul>
4 人口5万人前後	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方圏において、隣接している町村で一つの生活圏を形成している場合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉施策等の充実(福祉事務所の設置等)</li> <li>グレードの高い公共施設の整備</li> <li>計画的な都市化による圏域全体の発展</li> <li>市制施行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市制施行の要件(5万人(合併特例4万人))(福祉事務所の設置等)</li> <li>市町村障害者社会参加促進事業の単位(「厚生省関係障害者プランの推進方策について」(平成8年11月15日付け厚生省大臣官房障害保健福祉部長通知)参照)</li> <li>特別養護老人ホーム2か所、デイ・サービス7か所、ホームヘルパー70人弱</li> <li>環境政策一般部門の専任組織(課相当)の設置(3万人程度)</li> </ul>
5 人口1万人~2万人程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>中山間地域等において、地理的条件や文化的条件にまとまりなど、複数の町村が隣接している場合</li> <li>離島が、複数の市町村により構成されている場合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切かつ効率的な基幹的行政サービスの提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町村合併促進法(昭和28年)における標準(最低)規模(概ね8,000人)</li> <li>中学校の設置(標準法による基準での最小:13,200人程度で1校)(1学校当たりの生徒数を480人(1学級当たり生徒数40人×12学級)とする等の仮定を置いた場合(自治省試算))</li> <li>デイ・サービス/デイ・ケアの設置(新GPI.7万か所:7,300人程度に1か所)</li> <li>在宅介護支援センターの設置(新GP1万か所:12,500人程度に1か所)</li> <li>特別養護老人ホームの整備(最小規模50床を基準(なお、大都市、過疎地等では例外的に30床):2万人程度)</li> <li>2万人ではデイ・サービス3か所、ホームヘルパー30人弱</li> <li>建築技師の設置(1万人程度)</li> <li>※ 新GP=新・高齢者保健福祉推進10か年戦略(新ゴールド・プラン)</li> </ul> <p>なお、保健福祉、学校教育といった基幹的な行政サービスを適切・効率的に提供するためには、少なくともこの「5 人口1万人~2万人程度」という類型の規模は期待される。</p>